

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Cheonan Buldang Middle School



尾道市立因北中学校

交流の概要

学 年：第3学年
単元名：Stage Activity 1 Discover Japan
(NEW HORIZON English Course 3)
ねらい：韓国の中学生に自分たちの住んでいる郷土の文化などについて丁寧に説明したり、3択クイズでやり取りしたりすることができる。

グループごとの交流の様子



活動内容：

①学校紹介（全体）

韓国の代表生徒数名と本校の教員が本校について簡単な紹介を行った。

②韓国の文化紹介（全体）

韓国の生徒数名が、スライドを見せながら、自国の食べ物やK-POPなどの文化について詳しく紹介した。

③自己紹介（グループ）

両校の生徒が、1回目は6、2回目は12のブレイクアウトルームに分かれ、自己紹介（名前・好きなもの）を行った。

④日本の文化紹介（グループ）

本校の生徒が、スライドを見せながら、日本の文化について紹介した。また3択クイズを行い、韓国の生徒とやり取りをしながら、互いの文化について交流した。

⑤フリートーク（グループ）

好きなものや日常生活など、様々なことについて自由に会話した。

≪交流方法：Zoom≫

大切にしたこと

- ・複数のブレイクアウトルームを効果的に活用し、少人数でのグループを編成することで、生徒が発表したり、やり取りしたりする時間を長く設定した。
- ・生徒同士の会話ができるだけ途切れないようにするために、日本文化の発表や3択クイズを準備するだけでなく、事前学習時に「質問リスト」を作成した。
- ・事前に複数回、クラスの班同士でオンラインによる交流をすることで、当日の交流をスムーズに実施できるように準備した。

交流を終えて

生徒の声

- ・とても楽しかった。1回目の交流は、緊張してあまり自分の言いたいことを伝えることができなかったが、2回目の交流は慣れてきて相手の言いたいことを確認しながら理解することができた。
- ・日本語を少し話してくれる韓国の中学生がいて、びっくりした。
- ・最初は相手の英語を話すスピードが速く感じたけれど、徐々に慣れて内容を理解することができるようになった。
- ・同世代の外国人と話をすることができてとても楽しかった。とても盛り上がった。

先生の声

- ・普段とは違う生徒たちの表情を見ることができて、とてもよかった。
- ・何とか英語で自分の言いたいことを伝えようとしている生徒の姿が見られた。
- ・生徒たちは英語を話さなくてはいけないという必要感をもって交流に臨んでいた。この経験によって英語学習に対する意識が高まり、生徒にとっても教員にとっても大変有意義なものとなった。